

# 全国学力・学習状況調査

稲築東小学校

## 1.調査目的等

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

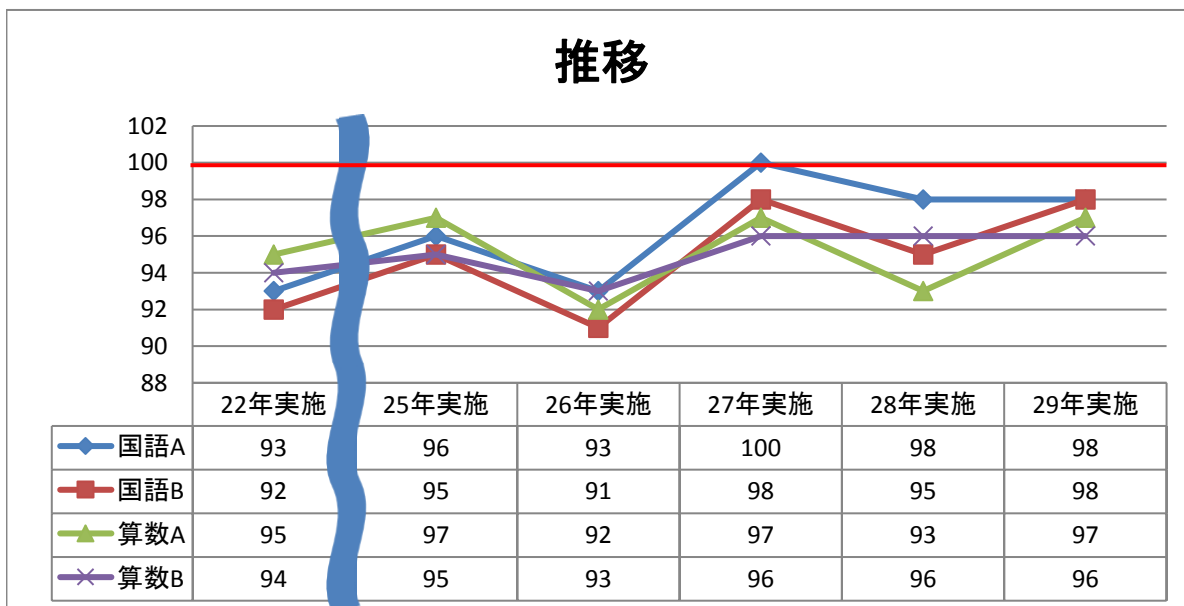
- 本年度の標準化得点の目標値(5年生時の福岡県学力実態調査の結果より設定)  
国語A=100、国語B=97、算数A=98、算数B=98
- 児童質問項目「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答える児童が全国平均以上
- 児童質問項目「普段、1時間以上家庭で学習している」と答える児童が全国平均以上

## 3.指標に向けての取組

- 国語A・算数Aの向上のために、形成的評価を実施し、基礎・基本の内容を確実に習得させる。
- 国語B・算数Bの向上のために、「書く・表現する」活動を設定し、必ず書くという意識と書く力を身に付けさせる。また、国語B・算数Bの問題に類似する宿題を作成し、家庭学習に取り入れる。
- 家庭学習(学年×10分+10分=70分)の習慣化を図る。

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100とした標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	98	98	97	96
嘉麻市	98	98	99	98
全国	100	100	100	100



## 5.各学校における分析

○形成的評価を実施し、児童のつまづきに応じた指導を行ったことで、算数Aが向上した。  
○「書く・表現する」活動を設定し、必ず書くという意識を強化したことで、テストに最後まで集中して取り組む児童が増え、無答率が減った。  
「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答える児童が全国平均をわずかが上回った。(本校=73.8% 全国=73.6%)  
○国語B・算数Bの問題に類似する宿題を作成し、家庭学習に取り入れたことで、児童が問題の意図や正しい解答の仕方を理解することができた。その結果、国語Bが向上した。  
○宿題がんばり週間や自学ノートの表彰を行うことで、家庭学習の習慣化が少しずつ図れている。  
「普段、1時間以上家庭で学習している」と答える児童が全国平均を上回った。  
(本校=70.5% 全国=64.4%)

## 6.各学校における今後の取組

○A問題の向上に向けて、形成的評価を継続して実施し、児童のつまづきに応じた指導を行い、基礎基本の定着を図る。  
○B問題の向上に向けて、国語では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする活動を、算数では、言葉や数、式を使ってわけや求め方等を書く活動を多く取り入れる。  
○中学校進学に向けて、3学期に、少人数分割授業による算数の総復習を行う。  
○5校時の始まりに、5分間の「いなちゃんタイム」(集中力育成トレーニング)を設定し、午後からの授業への集中力を高め、学習に対する心構えを作る。  
○家庭学習の「質・量・時間」を見直し、宿題の提出率100%を目指す。学力や集中力、家庭環境に課題があり、宿題の提出ができていない児童には、専科教員を中心とした放課後の宿題指導(個別指導)を行っていく。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◆嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。  
◆嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、教員の実践的指導力の向上を図る嘉麻市研究指定校事業を展開する。  
◆基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。また、長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。